

【報告】

中央大学 専修大学 日本大学 明治大学 企画展

「近代日本の幕開けと私立法律学校―神田学生街と法典論争―」について

中川 壽之

はじめに

二〇一四年一月二四日（金）から二月二八日（金）まで明治大学博物館特別展示室において、中央大学、専修大学、日本大学、明治大学の四大学による企画展「近代日本の幕開けと私立法律学校―神田学生街と法典論争―」を開催した。この展示は、一八八〇年代に相次いで誕生した私立法律学校について何か共同して展示をやってみたい、という四校の大学史関係者の思いがきっかけで始まった。そこで、まず会場について明治大学史資料センターの尽力により前記の特別展示室を確保いただいたことから展示を具現化していく道筋がついた。本報告では、実際に展示に関わった明治大学史資料センター（村松玄太氏、阿部裕樹氏）、専修大学大学史資料課（瀬戸口龍一氏）、日本大学大学史編纂課（松原太郎氏）そして当課（中川壽之）の五人による展示計画の策定、展示の事業化およびその実施について概要をまとめ、あわせて展示アンケート集計結果について報告し、展示の成果や課題、今後の展望について述べたい。

一 展示計画の策定

会場の目途が立った後、五人の具体的な打ち合わせが始まったのは二〇一二年五月のことであった。計画を立てる

にあたり四校で何が展示できるか、各校草創期の資料データを持ち寄って具体的に検討していくことになった。打ち合わせを進めていく中で、各校に共通するテーマとして第一に四校が何れも神田地区に縁が深いこと、第二に明治二〇年代に起こった法典論争に関わりがあることに着目し、その二つのテーマに視点をあてながら、明治維新を社会的な背景にして各校の起源から法典論争における立場などについて資料から迫っていくこととした。そして、最終的に展示構成は、一・神田学生街の形成（日大・松原氏担当）、二・明治維新と文明開化―法律学校創立者たちの修業時代―（専大・瀬戸口氏担当）、三・私立法律学校の胎動（明大・村松氏担当）、四・法典論争の中の私立法律学校（中大・中川担当）、五・私立法律学校のゆくえ―総合大学への道―（明大・阿部氏担当）の五章立てとし、それとは別に「神田と学生」というコーナーを設けることとした。

二 展示の事業化と実施

展示構成がほぼ固まってくると同時に、実施のための予算について検討に入り、各校五〇万円をそれぞれの予算申請方法に基づいて二〇一三年度予算計上できるように準備を進め、総額二〇〇万円を用途に設営、展示パネル、ポスター、チラシ、パンフレットの製作にあてることにした。二〇一三年度に入り展示設営とパネル等の製作については、特別展示室での展示実績のある東京スタデオに、印刷物については各校から印刷見積をとった上で、エス・クリエティブに一括して業務委託することとした。なお各業務を円滑に進めるため各校ごとに役割分担を決め、展示設営・パネル等の製作は明大、新聞社や自治体へのプレスリリースは専大、印刷物は日大と中大がそれぞれ担当することとし、外部からの資料借用や後援依頼にあたっては「四大学法律学校展実行委員会」の名義を統一的に使用することとした。

このようにして展示内容を確定し、ポスター・チラシ案、パンフレット原稿やパネルデータの作成へと進んだのは二〇一三年九月からで、ポスター・チラシは同年十一月に、パンフレットは翌二〇一四年一月に完成し、パネル等は設営時に納品された。各費用はポスター（A2判、二〇〇枚）九〇、五〇〇円、チラシ（A4判、三、〇〇〇枚）一五七、四五〇円、パンフレット（A4判・一六頁、一、〇〇〇部）二九六、一八〇円、展示設営・パネル等の制作一、三五〇、〇四六円、総額一、八九四、一七六円（二校当たり四七三、五四四円）であった。なお、印刷物の発送は全国大学史料協議会や後援依頼先などについては窓口を明大に一本化し、そのほか各大学が日頃お世話になっている資料提供者等へは個別に対応することとした。

展示開催を目前にした二〇一四年一月二〇日・二一日の両日、東京スタデオおよび明治大学博物館学芸員の方々の協力のもと特別展示室において各章ごとに展示担当者が設営作業を行い、準備が完了した。そして同月二三日に全国大学史料協議会東日本部会の会員校を対象に内覧会を実施し、翌二四日から展示会をスタートした。一月二四日から二月二八日まで三六日間の入場者数は合計で二、五三二人であった。会期中、二月一日には午前と午後二回、展示担当者によるギャラリートークを試みた。展示会場の模様と展示資料については、後掲の写真と展示品一覧（展示パネルを含む）を参照願いたい。このたびの資料展示で大変お世話になった穂積玲子氏（創立者穂積陳重孫穂積重行氏夫人）、穂積重永氏（穂積陳重曾孫、玲子氏御長男）、また菊池武範氏（創立者菊池武夫曾孫）、高橋照子氏（同上菊池武夫孫）をはじめ多数の本学関係者に寒い中をお越しいただいた。この場を借りてご来場の皆様改めて感謝申し上げます。

三 アンケート集計結果について

展示開催中（内覧会を含む）、アンケートを実施した。回答総数は一五四であった。その結果について、設問事項に沿って以下に分析結果をまとめておきたい。なお、本稿一三〇頁から一三一頁に円グラフを掲載しているのであわせてご覧いただきたい。

（一）見学者（年代別）・同（男女別）

当初、展示内容から年配の方々の見学者が多いのではないかと予想していたが、アンケート結果からすると、一〇代から三〇代までが三〇%、四〇代から五〇代が三二%、六〇代から八〇代が三四%と、三つの年代層で見ると、ほぼ三〇%平均であったことがわかった。大学が学年末試験から入試シーズンであったこともあり、学生の見学者が少なかった一方、四〇代の見学者が二〇%と年代別で一番多かった。これは御茶ノ水という場所柄、社会人の方々が気軽に立ち寄ってくれたからではないかと思われる。また男女別では、男性が七二%、女性が二五%で、見学者のうちほぼ四人に三人が男性という結果であった。

（二）問一 展示会をどこで知りましたか。

この設問には（ア）新聞・雑誌で見て、（イ）インターネットで見て、（ウ）知人に聞いて、（エ）その他の四つの小問があり、新聞・雑誌が一五%、インターネットが二〇%、知人が一七%、その他が四五%であった。そのうち、

新聞・雑誌については後援をお願いした毎日、朝日、読売の三新聞のほか東京新聞等が、また展示情報を掲載していた情報雑誌「東京人」の名前が挙がっていた。インターネットでは、主に各大学のホームページが情報源であったことがわかった。知人の場合は、展示に見えた方からの口コミによるもので、その他の多くは、各大学で掲示したポスターやチラシのほか各校の学生や卒業生向けの雑誌あるいは新聞によるところが大きかった。ちなみに、本学は在学生向けに『HAKUMON CHUO』、また卒業生に向けて「学員時報」、さらに保護者へも『草のみどり』を通じて展示開催前にそれぞれ二回ずつ展示案内を広報室、学事部父母連絡事務室、学員会本部事務局の協力のもと行った。大学広報誌が情報源として効果的である実態が窺えた。

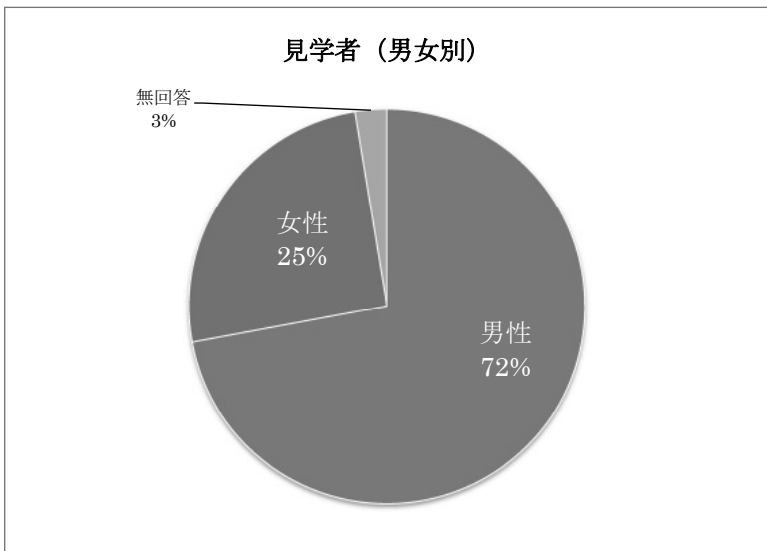
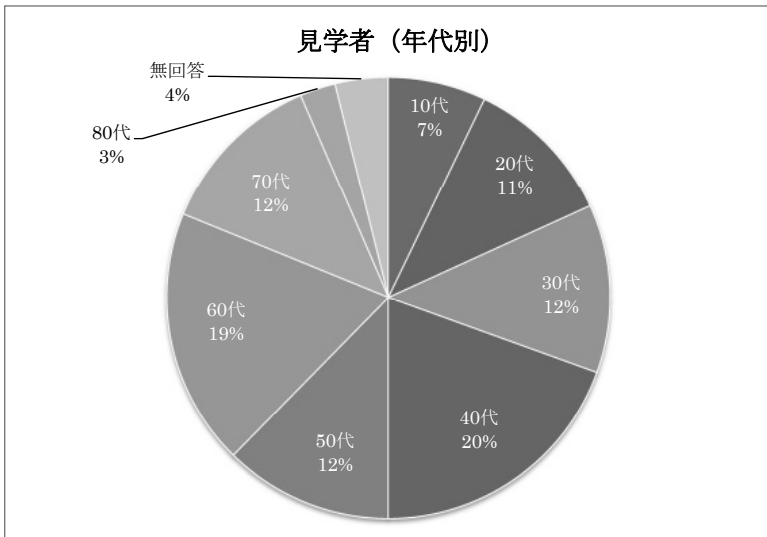
(3) 問一 印象に残った展示コーナー

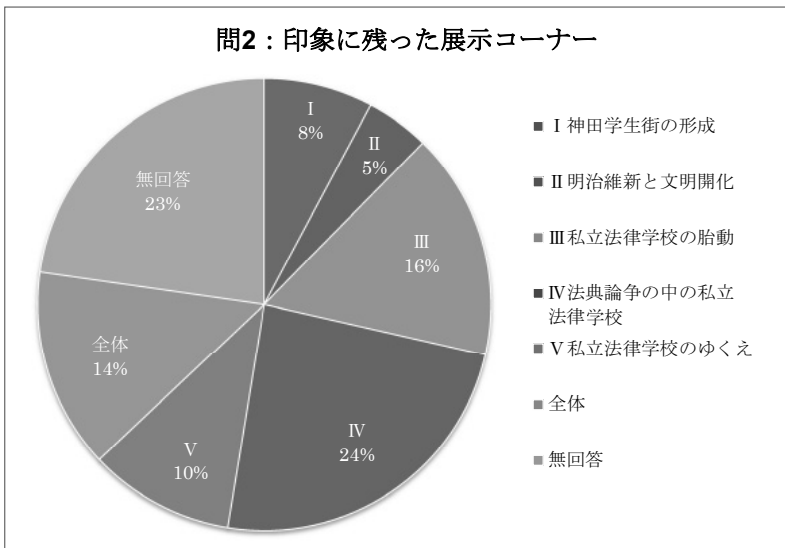
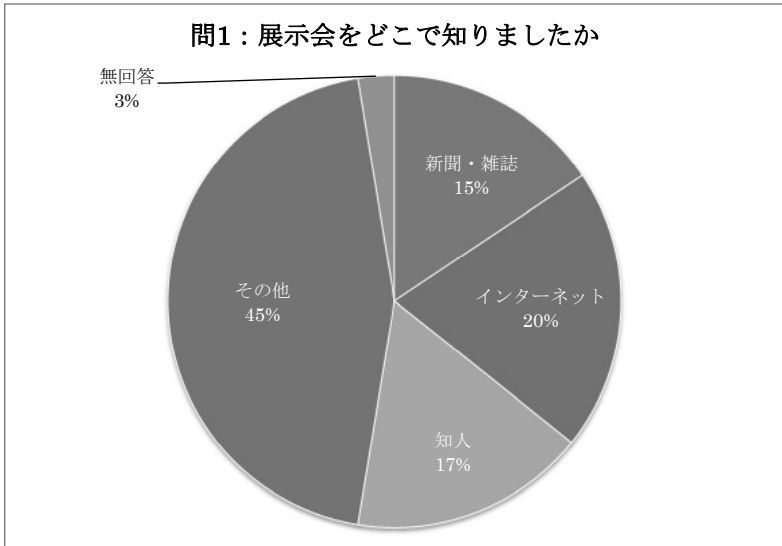
五章立ての展示については、Ⅰ神田学生街の形成が八%、Ⅱ明治維新と文明開化が五%、Ⅲ私立法律学校の胎動が一六%、Ⅳ法典論争の中の私立法律学校が二四%、Ⅴ私立法律学校のゆくえ（神田と学生を含む）が一〇%という結果であった。この数字からすると、ⅠやⅡの印象が他に比べて薄いように思われるが、じつはこのⅠ・Ⅱは一つ展示コーナーにまとめた関係で、見学者からすると一つの展示として見えた可能性が高く、両者を合わせると一三%となり、ⅢやⅤの展示コーナーとはほぼ同等であることがわかる。Ⅳは展示のうちで最も広いスペースを使用したこともあり他のコーナーに比べて印象に残ったのかもしれない。この設問は個別の展示コーナーについての印象を回答いただくことを想定したものであったが、それに関わらず展示全体が良かったという声も一四%にのぼった。この数字は、ⅠからⅤまでの平均値一二・六%を上回っており、全体を通して熱心に展示をご覧いただけたものと思う。

なおこの設問では印象に残った展示品についても記入をお願いしたが、これについては、三津山純氏デザインの「神田区の私立法律学校と区内在住の講師」図がとてもしっかりやすかったという感想や色鮮やかな「明治廿二年改正新版官立私立東京諸学校一覽」、大きく引き延ばした団団珍聞の風刺画（パネル）などが挙げられていた。そのほか、各コーナーの原資料について「貴重な資料を手軽に楽しめるところが良い（二〇代女性）」という意見も見られた。以下にその他の意見、感想からいくつか紹介しておきたい（順不同）。

- (a) 地図、写真、実物資料など、多くの資料が使用されており、とても見応えのある展示でした。（二〇代女性）
- (b) 大学の創始者達の偉業を資料とともに知ることができ、大変勉強になりました。（二〇代女性）
- (c) 一般には難しい内容も分かりやすく解説されており、大変良い印象を受けた。（三〇代男性）
- (d) 大変興味深い内容で、新しい国造りをしようという意気込みが感じられた良い企画です。（六〇代女性）
- (e) 法律制定と大学が深く関わっていることを知ることができて、法学部の学生として大学により興味がわきました。（二〇代女性）
- (f) 思った以上に多くの資料がコンパクトにまとめられていて、やはり大学連携の展示は迫力があると思いました。（四〇代女性）
- (g) 明治初期の各学校の創立の頃の熱気を感じました。（七〇代男性）
- (h) すばらしい企画だと思う。各校の歴史と歩みを現在の学生にも伝えようとするものでもある。（六〇代男性）
- (i) 教養を深める意味で、このような展示会はとても素晴らしいと思います。（三〇代男性）
- (j) 大学の枠を超えた展示で良かった。（三〇代男性）

- (k) 明治維新と文明開化が勉強になりました。（二〇代男性※中学生）
- (l) 日本の近代化において、各法律学校の果たした役割とそのルーツを明らかにされていて、良い企画であると感じた。（四〇代男性）
- (m) 法律の制定が大変な事であったのが手に取るようになりました。（五〇代女性）
- (n) 上下に長いものは下の方が見づらい等の改良点はありますが、非常に良い企画展（四大学共催）だと思います。（五〇代男性）
- (o) 大変興味深く、面白い企画でした。（六〇代男性）
- (p) 四つの学校の卒業証書の展示が象徴的でしたが、それぞれの個性が表れていて興味深かった。（三〇代女性）
- (q) 大震災、戦後で当時の資料は殆ど焼失したと思うが、後年の収集復原の努力に敬意。（六〇代男性）
- (r) 内容、企画、コンセプトが大変素晴らしい。（四〇代男性）
- (s) 神田地域の私立大学の歴史が大変よく分かりました。日本の近代化とともに大学の設置や法律の整備などがなされたおかげで今の日本があることを深く認識することができました。（二〇代男性）





四 おわりに

会場でご記入いただいたアンケートの中には、展示パネルの文字が小さく見にくかったことや神田学生街と法典論争の二つのテーマがどう関連するのか理解しにくい、といったご指摘もあった。前者については展示の構成上パネル数を減らすことができず止むを得なかったとは言え、展示コーナーの奥行きからすれば当然活字を大きくして見やすさに配慮すべきであったと反省している。また後者については、法典論争に当時の学生がどのように関わっていたかということまで触れることができなかったことで、双方のテーマをうまく結びつけることができなかったように思う。このほかパンフレットについても会場用が早い段階で品切れとなり、ご来場の皆様にご迷惑をおかけした。この場を借りてお詫び申し上げたい。

始まってみると、あれやこれや課題の残る点多々あったが、中央、専修、日本、明治の四大学が個別大学の枠を超えて一堂に会し初めて試みた今回の展示を無事に終えることができ幸いであった。このたびの展示開催にあたってご協力賜った学内外の関係各位、ご後援いただいた千代田区、神田古書店組合、全国大学史資料協議会東日本部会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社に心から御礼申し上げます。

アンケートの「見学を希望する企画展テーマ」という問いには、今回のような合同企画展が切り口を変えればいろいろできるのでは、といった意見が寄せられていた。四大学による企画展をきっかけにして今後また様々な試みがなされ、大学間の持つ歴史資料情報を共有発信し、広く社会に還元できるよう努めていきたい。

(中央大学大学史編纂課嘱託)

「近代日本の幕開けと私立法律学校—神田学生街と法典論争—」について（中川）

明治大学博物館特別展示室

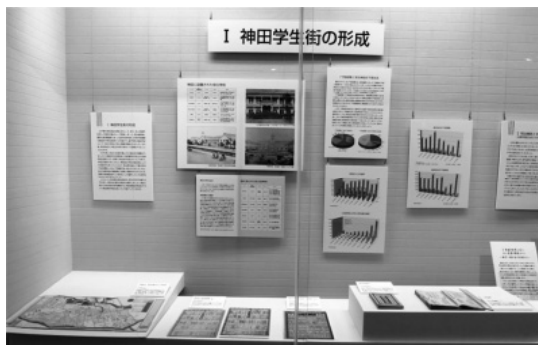
神田区所在の4法律学校の講師・関係者
↓



展示会場出入り口

↑
神田区
と区内
在住の
講師
と私立
法律
学校

展示コーナーⅠ



展示コーナーⅡ



展示コーナーⅢ 私立法律学校の胎動



展示コーナーⅣ 法典論争の中の私立法律学校



展示コーナーⅣの続き

「近代日本の幕開けと私立法律学校—神田学生街と法典論争—」について（中川）



展示コーナー V



神田と学生



2014年2月1日 ギャラリートーク





展示コーナーⅣ 中央大学出品の法典論争関係資料



展示コーナーⅤ 中央大学出品の卒業証書

中央大学史紀要 第19号

展示品一覧(パネルを含む)

I 神田学生街の形成

No.	資料名	年月日	備考
1	I 神田学生街の形成		A1/パネル
2	神田に設置された官立学校		
	* 開成学校校舎 神田錦町		A1/パネル
	* 女子師範在校生他写真	1878(明治11)年	A1/パネル
	* 学習院校舎 神田錦町		A1/パネル
3	『下宿届簿』に見る神田の下宿生活		A2/パネル
4	東京府内の下宿屋数・東京府内の下宿者数		A2/パネル
5	神田区人口の推移・4法律学校(大学)の学生数の推移		A2/パネル
6	増補改正 飯田町駿河台小川町絵図	1860(安政7)年	1
7	明治廿二年改正新版 官公私立東京諸学校一覧	1889(明治22)年	1
8	明治廿五年改正新版 当勢雷名八称人	1892(明治25)年	1
9	東京修学案内	1893(明治26)年	1
10	下宿届簿	1889(明治22)年— 1892(明治25)年	1
11	神田の学生生活・神田に創立された私立法律学校		A2/パネル
12	神田に所在した4法律学校の講師・関係者	1892(明治25)年現在	大型/パネル
13	神田区の私立法律学校と区内在住の講師	1892(明治25)年当時	特大シート

II 明治維新と文明開化—法律学校創立者たちの修業時代—

No.	資料名	年月日	備考
1	II 明治維新と文明開化—法律学校創立者たちの修業時代—		A1/パネル
2	司法省法学校に学んだ明治大学創立者たち		B3/パネル
3	ドイツで法律を学んだ人々(ドイツ留学時代の宮崎道三郎)	1884(明治17)年	B5/パネル
4	イギリスで法律を学んだ穂積陳重		
	* バリスター(法廷弁護士)姿の穂積陳重		A3/パネル
	* ミドルテンブル卒業証書	1879(明治12)年	A3/パネル
	* ミドルテンブル学生証	1876(明治9)年	A3/パネル
5	フランスで法律を学んだ人々		
	* 司法省法学校生徒へのフランス留学許可書	1876(明治9)年	A3/パネル
	* フランス留学生への手当金給与	1879(明治12)年	A3/パネル
	* フランス留学生たちの帰朝願	1879(明治12)年	A3/パネル
6	泰平の眠りを覚ます上喜撰。たつた四杯で夜も眠れず—近代化への道程—		A3/パネル
7	邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん—すべての人びとに教育を—		A3/パネル
8	智識ヲ世界ニ求め、大ニ皇基ヲ振起スベシ—海外へ飛び出す若者たち—		A3/パネル
9	散切り頭を叩いて見れば、文明開化の音がする—列強へ追い付け、追い越せ—		A3/パネル
10	伊豆相模武蔵安房上総下総海陸御固奉鑑		1

「近代日本の幕開けと私立法律学校—神田学生街と法典論争—」について（中川）

11	会津若松戦争之図 一魁齋芳年画		1
12	東京第一大学区開成学校開業式之図 曜齋国輝画		1
13	日本法律会社憲法	1876(明治9)年	1
14	判例研究ノート	1877(明治10)年	1
15	法律語彙		1
16	コロンビア大学卒業証書	1877(明治10)年	1
17	山田顕義建白書		1
18	留学先から親族に宛てた宮崎道三郎の書簡	1886(明治19)年	1
19	条約改正と法典編纂		
	* 山田顕義法律取調委員長宛大隈重信外務大臣書簡	[1889(明治22)年]8月24日	1
	* 和親通商及航海条約(日米条約草案)	1889(明治22)年5月	1
	* 法典編纂二関スル宣言(案)	1889(明治22)年5月	1
20	帝国議会衆議院議員 楊齋延一画	1890(明治23)年	1

Ⅲ 私立法律学校の胎動

No.	資料名	年月日	備考
1	Ⅲ 私立法律学校の胎動		A1パネル
2	法曹養成の制度化—法制整備と代言人規則改正—		A2パネル
3	私立法律学校の誕生		A2パネル
4	専修学校(専修大学の前身) 1880(明治13)年創立		A1パネル
	* 相馬永胤 * 田尻稻次郎 * 目賀田種太郎 * 駒井重格		
5	英吉利法律学校(中央大学の前身) 1885(明治18)年創立		A1パネル
	* 増島六一郎 * 菊池武夫 * 奥田義人 * 岡村輝彦		
6	日本法律学校(日本大学の前身) 1889(明治22)年創立		A1パネル
	* 学祖山田顕義 * 創立者総代宮崎道三郎 * 初代校長金子堅太郎		
7	明治法律学校(明治大学の前身) 1881(明治14)年創立		A1パネル
	* 矢代操 * 岸本辰雄 * 宮城浩蔵		
8	治罪法【『布令便覧』1888年所収】	1880(明治13)年	A3パネル
9	小幡篤次郎「専門学校ノ切要ヲ論ス」(『東京学士会院雑誌』第1編第5冊)	1879(明治12)年	A3パネル
10	現在地に移転した専修学校(風俗画報増刊『東京名所図会神田区之部上巻』第193号)		A3パネル
11	大日本裁判区図	1883(明治16)年	A3パネル
12	専修学校の創立趣旨	1887(明治20)年9月	1
13	相馬永胤教科書と講義筆記		1
14	研究誌『明法志林』	1881(明治14)年	1
15	明治法律学校設立の趣旨	1881(明治14)年	1
16	機関誌『明法雑誌』	1885(明治18)年	1
17	開校当初の想像図	1951(昭和26)年	A3パネル
18	南甲賀町校舎写真	1886(明治19)年	A3パネル
19	英吉利法律学校設置広告(『郵便報知新聞附録』)	1885(明治18)年	1

中央大学史紀要 第19号

20	講義録	1885(明治18)年	1
21	機関誌『法理精華』	1889(明治22)年	1
22	英吉利法律学校新校舎	1889(明治22)年	A3/パネル
23	伊藤博文『英文帝国憲法義解』(伊東巳代治訳)	1889(明治22)年	1
24	日本法律学校広告(朝野新聞)	1890(明治23)年4月2日付	A3/パネル
25	講義録筆写本(国際私法)	1897(明治30)年	1
26	本多康直・今村信行・深野達『民事訴訟法』	1893(明治26)年	1
27	三崎町独立校舎	明治30年代	A3/パネル

IV 法典論争の中の私立法律学校

No.	資料名	年月日	点数
1	IV 法典論争の中の私立法律学校		A1/パネル
2	民法典の編纂 *ギュスターヴ・ボアソナード *山田顕義		A1/パネル
3	法典論争における延期派(英吉利法律学校[東京法学院])と断行派(明治法律学校)の機関誌にみる主な論文・論説等一覧	1889(明治22)年5月 - 1892(明治25)年10月	A0変形 パネル
4	延期か、断行か—論争から政治へ—		A2/パネル
5	延期派の論客 江木衷(『法学新報』第17巻第7号口絵)	1907(明治40)年7月	A2/パネル
6	延期派の主張 7か条(『法学新報』第14号社説「法典実施延期意見」)	1892(明治25)年5月	B3/パネル
7	断行派の論客 磯部四郎		A2/パネル
8	断行派の主張 9か条(『法治協会雑誌』号外「法典実施断行意見」)	1892(明治25)年5月	B3/パネル
9	法典編纂ニ関スル法学士会ノ意見	1889(明治22)年5月	A3/パネル
10	延期派の旗手 穂積八東		A3/パネル
11	延期派の司令塔 高橋健三(『自待言行録』口絵)	1899(明治32)年	A3/パネル
12	法典論争を「棒押」にたとえた諷刺画(『團圓珍聞』第860号口絵)	1892(明治25)年5月	B0/パネル
13	同上 解説		B4/パネル
14	民法の修正に尽力した私立法律学校の人びと		A2/パネル
15	民法起草の3博士	1895(明治28)年	A2/パネル
16	法典調査会委員一覧	1893(明治26)年4月 - 1898(明治31)年7月	A1変形 パネル
17	民法・商法編纂のあゆみ		B2/パネル
18	本田恒之稿「盛典編纂論」(『法叢』第9号)	1889(明治22)年1月	1
19	穂積八東「民法出テ、忠孝亡フ」(『法学新報』第5号)	1894(明治24)年8月	1
20	法典実施延期意見	1892(明治25)年4月	2
21	法典ノ実施ニ関スル明法会員ノ意見(『明法誌叢』第4号)	1892(明治25)年6月	2
22	高橋健三宛西川鉄次郎書簡	1892(明治25)年5月21日	1
23	鳥尾小弥太宛山田喜之助書簡	1892(明治25)年5月26日	1
24	松野貞一郎・高橋健三・岡村輝彦其他諸君宛江木衷書簡	1892(明治25)年5月31日	1

「近代日本の幕開けと私立法律学校—神田学生街と法典論争—」について（中川）

25	臨時法典修正局官制案	1892(明治25)年6月	1
26	高橋健三宛藤田隆三郎電報	1892(明治25)年5月21日	1
27	法典延期事務所宛橋倉次雄電報	1892(明治25)年6月11日	1
28	東京法学院松野貞一郎・高橋健三宛指田義雄電報	1892(明治25)年6月11日	1
29	法典延期同盟会宛沼田宇源太電報	1892(明治25)年6月11日	1
30	六十会報告・同規約	1892(明治25)年7月	1
31	修正民法草案(『法学新報』号外)	1896(明治29)年2月	1
32	修正法例草案 修正民法草案(親続編・相続編) 修正商法草案(『法学新報』号外)	1897(明治30)年12月	1
33	版を重ねた岸本辰雄校閲・久富勘太郎註釈『日本民法義解』		
	*『日本民法義解』 青眼堂	1898(明治31)年9月	1
	*『改正 日本民法註釈』 求光閣	1899(明治32)年5月	1
	*『改正 日本民法註釈』 求光閣	1902(明治35)年5月	1
	*『改正 日本民法註釈』 求光閣	1909(明治42)年1月	1

V 私立法律学校のゆくえ—総合大学への道—

No.	資料名	年月日	備考
1	V 私立法律学校のゆくえ		A2/パネル
2	私立法律学校のゆくえ—総合大学への道—		B1 菱形 パネル
3	専修学校卒業 今村力三郎(弁護士)		A2/パネル
4	英吉利法律学校卒業 花井卓蔵(弁護士、政治家)		A2/パネル
5	日本法律学校卒業 松田源治(弁護士、政治家)		A2/パネル
6	明治法律学校卒業 布施辰治(弁護士)		A2/パネル
7	明治法律学校卒業証書	1885(明治18)年	1
8	日本法律学校卒業証書	1897(明治30)年	1
9	明治大学卒業証書	1924(大正13)年	1
10	東京法学院(現中央大学)卒業証書	1890(明治23)年	1
11	明治大学法学部卒業アルバム	1929(昭和4)年	1

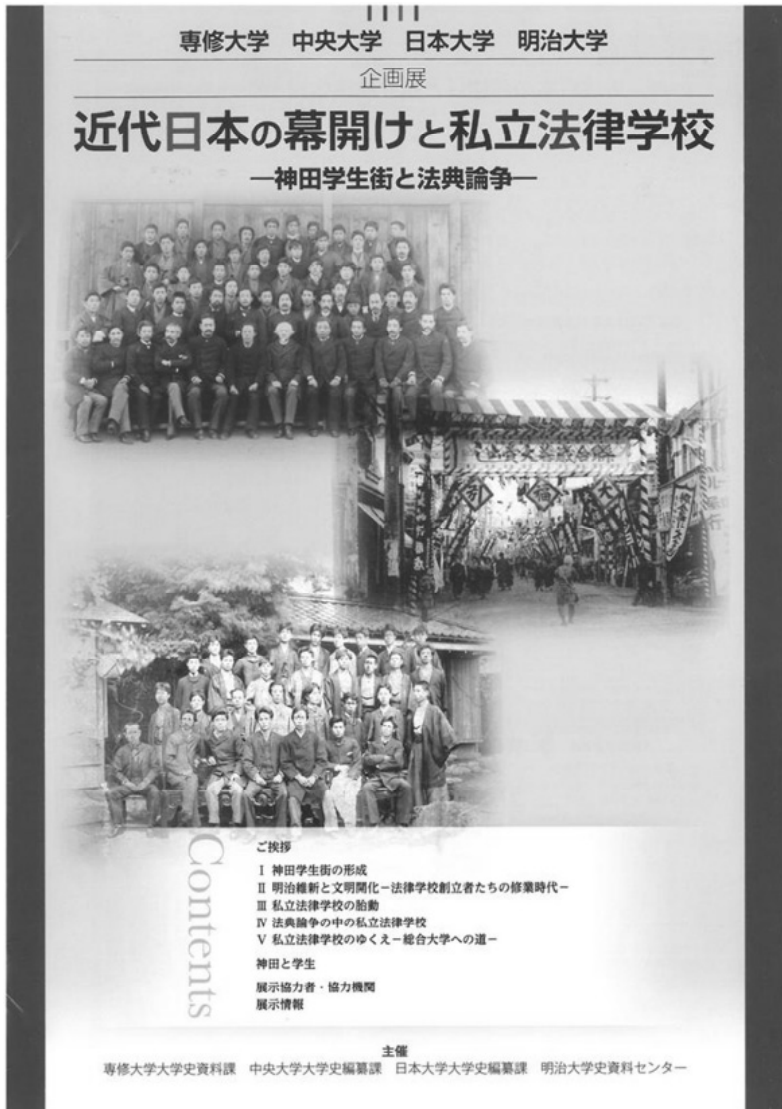
神田と学生

No.	資料名	年月日	備考
1	富士見軒でのポアソナード送別会	明治期	A0/パネル
2	第5回卒業記念写真		
3	ポアソナードとの記念写真		
4	御茶ノ水駅		
5	専修学校が仮校舎とした中猿楽町の順天求合社		
6	御茶ノ水橋付近		

中央大学史紀要 第19号

7	明治大学錦町分校		
8	三崎町の日本法律学校校舎		
9	授業風景		
10	明治期の卒業生たち		
11	明治20年頃の学生		
12	明治大学駿河台キャンパス(2代目記念館)		
13	獨逸学協会学校神田西小川町校舎と学生		
14	明治法律学校南甲賀町校舎		
15	御茶ノ水駅へ向かう駿河台校舎西側道路		
16	震災前の日本大学駿河台校舎		
17	大正期の古書店		
18	市電が走る小川町通り		
19	専修大学正門		
20	神保町交差点		
21	震災直後の神田神保町通り		
22	中央大学駿河台校舎落成祝賀会	大正期	A0パネル
23	専修大学神田校舎付近の家並み		
24	震災直後の明治大学校舎		
25	中央大学錦町校舎とニコライ堂		
26	大正6年の中央大学錦町校舎罹災		
27	復興後の神田神保町通り		
28	俎橋付近		
29	神田神保町 暮れのにぎわい		
30	映画館前の学生		
31	御茶ノ水駅と学生		
32	神保町界限		
33	聖橋と学生		
34	中央大学駿河台校舎		
35	明治大学記念館		
36	中央大学駿河台校舎全景		
37	ニコライ堂と学生		
38	中央大学創立50周年記念祭		
39	市電を待つ学生		
40	三崎町の日本大学本部		
41	三省堂書店前の学生	昭和戦前期	A0パネル

※ 備考欄には、展示品のうちパネルはサイズを、また原資料は点数を記入した。



展示パンフレット 表紙

正誤表

頁数	段	行数	誤	正	備考
132		1	四 おわりに	おわりに	